

バレエ教室における 新型コロナウイルス感染予防ガイドライン

令和3年11月1日更新
公益社団法人日本バレエ協会

1 序

新型コロナ・ウイルス感染拡大が小康状態となったこの秋、発令されていた緊急事態宣言も解除され様々な規制が徐々に緩和され、ワクチン接種も順調に進んでいる様に見受けられる今日この頃ではございますが、一方で医療有識者は口をそろえてこの冬の第六波襲来への懸念を口にしております。

それが現実になるか否かは私たちが“気をゆるめる”か、引き続き“気を引き締める”かにかかっている事は明らかで、状況が新型コロナ流行以前の状態に依然として程遠い事を忘れてはならないと思います。

「新しい日常」は決して惰性の日常であってはならず、常に状況に気を配りつつこのコロナ禍を乗り切っていかなければならない事は数多くの生徒さん、観客の皆様を相手にする私達バレエ関係者の義務であり、課せられた責務であります。

一昨年のコロナ禍発生の春先以降にあっては多少の地域差はあったにせよほぼ全国全てのバレエ関係者が公演や発表会の開催を控え、教室での指導を休止してコロナ禍一年目を乗り切り、二年目にあっては慎重の上に慎重を重ねて活動を再開、マスクを着用しての稽古は当たり前、無観客での発表会、公演のネット配信、ZOOMレッスン、オンライン講習会等々、様々な工夫を凝らしてなんとかバレエの灯を消さぬ様、子供たちの夢を途切れさせぬ様努力して参りました。

私達日本バレエ協会ではそうした皆様の様々なコロナ対策の工夫を公開して共有し合い、対コロナの方策を蓄積して参りましたが、感染拡大が一応の小康状態を見せている現状に於いての「緊張感を保ったまま従来より幅をもたせたガイドライン」を公開いたしますので参考にさせて頂ければと存じます。

以前もガイドラインで触れた通り、バレエはその稽古からして宿命的に「3密」状態にならざるを得ない、「3密」でなければ稽古にならない事からして感染予防は依然として最大限の注意を払わなければならない事は前提条件として変わりはなく、ここに文字通り「道標」とし

てご提案するガイドラインは、国や地方自治体の方針を踏まえ、バレエ教室の今日的な在り方、運営に向けて実施するのが望ましいと思われる基本的事項を整理したものです。

勿論皆様の主宰するバレエ教室には運営形態や施設の規模など多様な違いがあり、同時に各地域に於ける感染状況に違いもある訳ですから以下のご提案が稽古場運営の必須条件ではありませんし、残念ながら全てを実施したところで感染が100%防げるという確証もございませんが、より感染予防効果を高めるための推奨事項として、運営の参考にさせていただければと存じます。

2 本ガイドラインの概要

本ガイドラインは、令和3年9月28日変更による新型コロナウイルス感染症対策本部による「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の、とりわけ「新型コロナウイルス感染症対策実施に関する重要事項」に基づき、バレエ教室特有の状況を勘案して感染拡大が一応の小康状態にある中での稽古場運営を想定し、防疫の参考に供するために作成されております。

【バレエ教室における感染症予防対策の実践例】

3、コロナ禍下でのバレエ教室運営のガイドライン

前提

(1) 一人ひとりの基礎的感染対策（全般）

以下に示すガイドラインはバレエの教授業の立場からのガイドラインであり、基本はあくまでも国や教室が所在する都道府県、市町村からの通知・要請遵守が優先となりますので本ガイドラインを金科玉条とせず、感染拡大状況の各段階に応じた適切な対応をとって下さい。

厳に守るべき感染防止の3つの基本

①スクの着用 ②手洗い・消毒・体温測定 ③身体的距離の確保

- ・稽古・リハーサルはマスク着用にて行う事。
- ・稽古場入り口には消毒液を常備、手指消毒を怠らぬ様指導の事。
- ・体温測定はコロナのみならずインフルエンザ等の感染予防になるため実施の事。

- ・レッスン、リハーサル中の大声での指導、会話は教師・生徒共控えること。

バレエに限らず守るべき移動に関する感染対策

- ・感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- ・帰省や旅行はなるべく行わない。
- ・不要不急の外出は控える。
- ・発症した時の為、誰とどこで濃厚接触的に会ったかを記録する。
- ・地域の感染状況に注意する。

(2) バレエ教室としての対策（教室主宰者側）

- ・生徒付添父母の入室・見学はお断りすることを強くお勧めします。また入所希望者の見学も可能なら室外からにしてもらって下さい。
- ・入口に消毒用薬液を常備し、生徒・教師共に入室時には必ず手指の消毒を習慣付ける。
- ・生徒の入室時に検温を行う。これは新型コロナのみならずインフルエンザ等の感染防止にも役立つので必ず実施。

ご注意 ・非接触型体温計には測定値が不正確に表示されるものも報告されておりますので購入前にネット等で製品の評価を調べる事をお勧め致します。

- ・パルスオキシメータの数値で新型コロナウイルス感染の有無の判断はできません。

- ・入口のドアノブ、バーは頻繁に消毒液で塗布する。
- ・室内の換気を頻繁に行う。
- ・更衣室やトイレ、また更衣室の棚・備品等は生徒の入退室ごとに消毒を行う。
- ・生徒以外の保護者付添いの入室を原則的に禁止する。
- ・各クラスの間に対策ができるよう、レッスン時間・タイムスケジュールを組み立てる。
- ・更衣室の広さに応じて入室人数を決め、教師が入室制限を行う。

(3) バレエ教室としての対策（生徒側）

- ・本人は勿論、同居人に熱や風邪症状がある場合は必ず稽古を休む。
- ・呼吸困難、熱中症が発症しないと思われる範囲でマスクを着用して受講。（夏用スポーツ専用マスクなども販売されています）

- ・水筒、ペットボトルなどを用意して頻繁に水分を補給する事。
- ・友人・姉妹間での稽古着やシューズ、タオル類の貸し借りは行わない。
- ・咳やくしゃみが出そうになったら稽古を中断してタオルで顔を覆う。
- ・来校時間、入室時間は教室の決めた時間に従い、教室が「密」状態になるのを避ける。
- ・稽古着は毎回洗濯済のものを着用する事。

(4) レッスンでの対策（教師側）

- ・上記の生徒側が守る事を繰り返し指導する事。
- ・常時換気に配慮してレッスンを行う事。
- ・原則マスク着用で指導。また生徒に余り顔を近づけず大声で叫ばない。

ご注意 ・表情が見えないからとフェイスシールドを装着して指導している教師の方も多い様ですが、飛沫拡散効果が薄い形状のものもありますので余りお勧め致しません。

- ・バー・レッスンの位置取りに注意し、最低限の間隔をあける。また向かいあわせでのバー使用は極力避ける。
- ・センター・レッスンでは順番待ちの生徒が密にならないよう間隔を空けて待機させる。
- ・パ・ド・ドゥ・レッスンは男性側に遠慮せずに事前の体調報告、行動報告（海外を含め感染拡大地域で仕事をしていなかったか、PCR検査の有無等）を求めた上で行う事。また必要なら未成年女性生徒父母への同意を求める事。

所謂ゲスト男性に関しては抗体検査キットを用意しておいて検査をお願いしても構いません。＜但し市販の簡易検査キットの精度はあまり高くないとされています。＞男性ゲストは複数の稽古場で仕事をしている場合が多く、また外での飲食の機会が多いからです。

万が一、感染者が教室関係者に発生してしまった場合は直ちに保健所に報告、地区行政の指示に従って対処を行って下さい。

(5) 発表会について

発表会の開催については基本劇場側の指示に従う事となります。

多くの公立文化施設（劇場）は、全国公立文化施設協会の示すガイドライン（劇場、音楽堂

等に於ける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン)を基準に使用時のルールを定めているようですが、利用申込をする場合、その時点でのルール、緊急事態宣言が再発令された場合のルール、逆に規制緩和が大幅になされた場合のルールなど劇場側に確認して下さい。

緊急事態宣言が発令されていた頃はパ・ド・ドゥの禁止、群舞の禁止等と不特定多数が偶然出会うソーシャル・ディスタンスと日常的に稽古を同じくしている者のディスタンスを同一に扱うルールが設けられていた劇場も多く、トラブルが多発しました。劇場側ルールに照らして演目を決める様にして下さい。

このガイドラインを提案する時点では全国で一日の感染者数が概ね百名前後と一応の小康状態にありますものの以下を強く推奨いたします。

- 使用時の劇場側使用ルールに従って開催する事。
- 生徒の楽屋入りの際、入り口での手指消毒・検温を必ず実施して下さい。
- 楽屋に生徒父母、親族の入室を禁止することをお勧めします。
- 生徒数に対し楽屋の数が少ない、若しくは狭い場合は二部制にするなど分散を考えて下さい。
- 本番以外、ゲネプロまではマスク着用でリハーサルを行って下さい。本番も可能ならマスク着用で袖に待機、外して踊り終わったらすぐに着用出来る様にデスクなど設置するのが良いでしょう。
- メイクに差しさわりのある様でしたらメイクした後用のフェイスシールドを揃えておくのも良いでしょう。
- 各楽屋には必ず消毒液を常備して下さい。
- 楽屋口での出待ちは禁止して下さい。
- お客様に関しては芸協内での飲み物以外の食事の禁止、大声での会話の禁止を周知させて下さい。
- 入場時の列を避けるため、座席指定券を発行するのが望ましいです。また入場者が誰であったか把握できる手段を講じるのが望ましいです。(座席指定券裏に名前を書いていただいて入場時に回収する等)

総じて発表会時の防疫に金銭的にも人的にも吝嗇になる事はもっとも避けるべき態度です。万が一にも感染者が生徒・スタッフは勿論、お客様に発生してしまった場合の損失は計り知りません。」